| 学校番号 | １００９ |
|---|---|

# 令和３年度　地理歴史科

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史Ｂ | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 詳説日本史　（山川出版社） | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

## １ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・日本史学習を通して、地域それぞれがはぐくんできた歴史の多様性と、世界特に東アジアの歴史との関連性や日本の文化・伝統に対して認識を深める。

## ２ 学習の到達目標

・教科書等の文字資料、地図、映像・写真資料などから、歴史的思考力を培う。
・わが国の歴史の展開を諸資料に基づき、現代の諸事象・諸問題と関連付けて総合的に考察する。
・現代の背景となった歴史学習をもとに、これからの日本人としてあり方を考えることができる。

## ３ 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気付き、関心をもって主体的に学習に取り組めているか。 | 日本の歴史の展開から課題を見出し、歴史的に形成された諸課題について、多面的な側面で考えられるか。 | 日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、得られた資料を効果的に活用して歴史を探求する学び方を身に付けているか。 | 基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 |
| 評価方法 | 出席状況<br>授業態度<br>宿題等の提出状況 | 定期考査<br>授業発言の記録<br>ノート | 定期考査<br>授業レポート<br>ノート | 定期考査 |
| | 〔主題学習〕<br>振り返りシート | 〔主題学習〕<br>レポート | 〔主題学習〕<br>レポート | 〔主題学習〕<br>内容のまとまり |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４ 学習の活動

| 月 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 4月～9月 | 第1章 日本文化のあけぼの | ・文化の始まり | ◎ | ○ | ○ | ○ | a:日本の原始社会の地域に残る弥生遺跡に興味をもち、意欲的に探求する。<br>b:地域の遺跡や古墳について考察しその特徴を表現する。<br>c:地域に残る弥生文化博物館を訪ねるなどして資料収集をし社会の様子を調べる情報を収集する。<br>d:日本の縄文・弥生・古墳時代の歩みを、泉州地域と畿内、または国際環境の中で考え、総合的に理解し、知識を身につける。 | 出席状況<br>定期考査<br>ノートなど提出物 |
| | | ・農耕社会の成立 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | ・古墳とヤマト政権<br>・ | ○ | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 第2章 律令国家の形成 | ・飛鳥の朝廷 | ○ | ○ | ○ | ◎ | a:古代国家の成立過程を意欲的に課題をみつけ追求しようとしている。<br>b:古代国家の発展が東アジアの動向と関連していることを考察し、その成立過程や特徴を適切に表現している。<br>c:古代国家の成立に関する史料や文化に触れ、その意図や内容を史料から適切に読み取っている。<br>d:古代国家の成立過程で天皇を中心とした政治が行われたことを理解し、飛鳥から、奈良にかけて律令制を導入し、平安時代に変質していくことを理解し、その知識を身につける。その際、古代国家と遣隋使・遣唐使を含む東アジアとの関係を理解し、その知識を身につける | 出席状況<br>定期考査<br>ノートなど提出物 |
| | | ・律令国家への道 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | ・平城京の時代 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | |
| | | ・天平文化 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | ・平安王朝の形成 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10月～2月 | 第3章　貴族政治と国風文化 | ・摂関政治<br>・国風文化<br>・地方政治の展開と武士 | ◎<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ | ○<br>◎<br>○ | ◎<br>○<br>○ | a:摂関政治がなぜ行われたのかについて関心を持ち、課題を追究しようとしている。<br>b:武士の出現や文化の特色・違いについて、自らの言葉で説明できている。<br>c:かな文字の発生や宮廷文化が行なわれ、国風文化が形成されたことを読み取っている。<br>d:武士が土地の所領関係で結びついていることを理解し、荘園との関係も、地元の資料も利用しながら理解し、知識を身につけていく | 出席状況<br>定期考査<br>ノートなど提出物 |
| | 第4章　中世社会の成立 | ・院政と兵士の台頭<br>・鎌倉幕府の成立<br>・武士の社会<br>・蒙古襲来と幕府の衰退<br>・鎌倉文化 | ◎<br>○<br>◎<br>○<br>○ | ○<br>○<br>◎<br>○<br>○ | ○<br>◎<br>○<br>○<br>◎ | ◎<br>○<br>○<br>◎<br>○ | a:院政により、どう世の中が変化していくのかに興味を持ち、武家政権の成立について意欲的に追求しようとしている。<br>b:武士の出現や武家政権の特徴について、文化や特色と関連付けながら考え、適切に表現できている。<br>c:平安末から鎌倉時代にかけての社会や文化の変化を鎌倉新仏教や寺社・仏像などから読み取っている。<br>d:蒙古襲来など、中国や朝鮮・モンゴルなど東アジアの情勢や動向が日本の歴史に大きなかかわりを持っていることなど国際関係と関連付けて理解できる。 | 出席状況<br>定期考査<br>ワークシート<br>ノートなど提出物 |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について◎や○を付けている。